

## 音楽中心的音楽療法の特別トレーニングプログラム実態調査

長江 朱夏

近年、音楽療法是医療や福祉の分野において需用が高まっており、音楽療法士の活躍の場も幅広くなってきている。しかし、日本の音楽療法の分野において、専門性の高いアプローチの学びは、任意の勉強会レベルに留まっており、認定を受けられるような特別トレーニングの提供は極めて少ない。海外では、音楽療法士がより専門性を高めるために、音楽療法の分野で特殊トレーニングを受け、より高度なテクニックと知識を学ぶ教育機関が充実している。そして学士課程、修士課程、博士課程と、学術的なレベルにおいても選択肢が多岐にわたる。しかし、日本ではそのような学びの場の選択肢が相当に未熟である。

私は、即興音楽活動を用いた音楽療法の手法の特別トレーニングの認定を2種類取得している。どちらも音楽療法の修士課程以上の卒業を受講基準としており、米国ニューヨークにてトレーニングを完了している。どちらのアプローチも音楽を心理療法として扱うことを目的とし、認定プログラムはハウツーに偏ることなく、理論・実践・研究の3つが等しく重要性を持って構成されている。猪狩裕史氏は、2016年開催の日本音楽療法学会学術大会において、「日本における音楽療法のさらなる発展を目指して～臨床・研究・理論の3本柱を考える～」のタイトルで自主シンポジウムを開催し、3つの分野がバランスよく存在することの重要性を説き、啓発活動に一石を投じた。

海外では、特別なアプローチの認定トレーニングを大学院プログラムに組み込む、あるいは大学院プログラムと平行する形でセラピストの育成を行っている教育機関が多数存在する。分析的音楽療法(以下 AMT)<sup>1</sup>、音楽とイメージ誘導法(以下 GIM)<sup>2</sup>やノードフ・ロビンズ音楽療法(以下 NRMT)<sup>3</sup>のようなアプローチがその代表的な例である。これら3つのアプローチは、音楽中心的音楽療法(エイゲン 2013)と呼ばれ、これまで留学によってのみ可能であった専門的な特別トレーニングであった。この為、日本国内ではアプローチそのものに関する情報は書籍や文献などのリソースに限られていた。しかし、2016年から2017年にわたり、名古屋音楽大学において GIM トレーニングが日本で初めて提供された。体験的学びを含むトレーニング内容には、参加者が日本各地から集まり、その多くは経験豊富なセラピストであった。そして、これまでの日本で提供されたことのないトレーニングのレベルが参加者のニーズと合致し、非常に充実した内

<sup>1</sup> 分析的音楽療法は英語で Analytical Music Therapy であることから、省略をその頭文字を取って AMT とする。

<sup>2</sup> 音楽とイメージ誘導法は英語で Guided Imagery and Music であることから、省略をその頭文字を取って GIM とする。

<sup>3</sup> ノードフ・ロビンズ音楽療法は英語で Nordoff-Robbins Music Therapy であることから、省略をその頭文字を取って NRMT とする。

容となった。

これが示唆することは、日本国内の音楽療法士の実力が高まっており、“学び直し”の場としての上級育成プログラムが求められているということである。今後名古屋音楽大学音楽療法コースにおいて、音楽療法教育(大学院レベル)の一部として特別トレーニングを組み込むことは、より高度な育成環境を提供し、レベルの高い音楽療法士を輩出していくことにつながり、日本国内の音楽療法全体の底上げに貢献できると考える。

名古屋音楽大学における高度な音楽療法教育環境整備の第一段階として、まずは海外の特別トレーニングの内容と大学院プログラムとの連携について調査し、まとめることとする。今回調査したのは、AMT、GIM、そして NRMT の3種であるが、その理由としては、将来の名古屋音楽大学の音楽療法コース大学院プログラムにいずれかのアプローチを組み込みたいという希望があること、そして、私自身が実際に全てのトレーニング(GIMはLevel 1のみ)を受けた経験から、トレーニングを受けたことで知る情報を必要に応じて補うことが可能であると考えたことが挙げられる。

今回調査の過程で参考にした情報源は、インターネットなどで公開されているものから、私自身の個人的なリソース(トレーニング資料など)までであるが、出来る限り一般に公開されている情報を基本として論じる。まずは、各プログラムの要点をまとめたものを表にして紹介する。紹介順は、アプローチ名のアルファベット順とする。

### Analytical Music Therapy

AMT アプローチは、イギリスを発祥とし、メアリー・プリーストリーによって開発・発展・確立をされた。成人(当初は精神疾患をもつ成人)を対象とし、特色としては精神力動のダイナミックな取り組みの中で、音楽とセラピストの役割に「象徴」的意味づけをする視点があり、音楽やセッション中に生まれるエネルギー(人、音楽、表現など)や“美”の捉え方にも他には無い理論が存在する。育成機関は極限られている中で、米モロイカレッジ大学院プログラムにおいて認定トレーニングが開設されている。以下、その内容を筆者が訳しここに紹介する。

Analytical Music Therapy (AMT)	
情報源	米モロイカレッジ AMT 認定トレーニングよりウェブページ公開情報より
育成機関とプログラム名	Molloy College Analytical Music Therapy Certification Program
育成機関の所在	1000 Hempstead Avenue, Rockville Center, NY 11571 (米ニューヨーク州)
プログラム内容 の認定機関	明確な記載情報なし (しかし、米国唯一の AMT トレーニングおよび研究機関である Institute for



## Guided Imagery and Music

GIM は米国発祥のアプローチで、ヘレン・ボニーが創始者である。成人(主にうつ病や中毒症などをもつ成人)を対象とした音楽とイメージを用いる心理療法で、クラシック音楽を中心とした専用の音楽プログラムを使うこと、多岐にわたる“イメージ”の種類を理解し対応(介入)するスキルが必要となる。また、変性意識状態での体験を扱うことへの専門的知識や、音楽がコ・セラピストという重要な位置づけであることなどの特徴的な理論を持つ。世界各地でトレーニングが開催されており、大学が主催しているトレーニングもあるが、トレーニングそのものは大学プログラムから独立して提供されていることがほとんどである。セラピストの育成に関しては、音楽とイメージ学会(Association for Music and Imagery/AMI)の規定に沿って構成され認可を受けなければならない。

ここに紹介する名古屋音楽大学での GIM トレーニングは、米 Atlantis Institution for Consciousness and Music の専門家育成訓練(AMI の認可を受けている)を日本語通訳を付けて実施している内容である。以下、その内容を紹介する。

The Bonny Method of Guided Imagery and Music (GIM)	
情報源	名古屋音楽大学音楽療法 GIM 実践家育成プログラム
育成機関とプログラム名	名古屋音楽大学 音楽療法 GIM 実践家育成プログラム Level 1:ボニー式 GIM の基礎的概念
育成機関所在	愛知県名古屋市中村区稲葉地町 7-1
プログラム内容の認定機関	音楽とイメージ学会(Association for Music and Imagery/AMI)
インストラクター	Jim Borling: 米ラッドフォード大学音楽療法科主任教授、AMI フェロー 吉原奈美: GIM フェロー、通訳
期間	4日間(36 時間の宿泊を伴う集中トレーニング)
内容	講義・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ GIM の歴史、理論、哲学的視点</li> <li>◆ ガイド(セラピスト)とトラベラー(クライアント)の役割</li> <li>◆ 初歩的なガイドのための技術の紹介</li> <li>◆ Level 1 の音楽プログラム</li> <li>◆ 音楽がいかにかセラピストとして機能するか</li> <li>◆ イメージの過程と変性意識状態</li> <li>◆ ボニー式 GIM の適応</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 倫理 ペアによる体験(実践トレーニング)</li> <li>◆ ガイド:2回、受講生により観察される</li> <li>◆ トラベラー:2回、受講生により観察される</li> </ul>
トレーニング終了時の認定内容	<p>GIM レベル1トレーニング 修了証:6種の音楽プログラムの使用許可、ならびに“Music and Imagery” グループワークの提供が可能。</p> <p>※GIM は、Level 1, 2, 3 と段階的にトレーニングがあり、Level 1, 2 は Music and Imagery における活動(それぞれ規定有)、Level 3 では GIM における活動が許可される。詳しくは名古屋音楽大学ホームページでの情報を参照。</p>
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1回の個人 GIM セッションを受けていること(音楽療法体験)</li> <li>◆ 修了者は自国でセラピストとして実践する資格を保有している必要がある</li> </ul> <p>※海外では場合によっては次の何れかの専門職を受け入れている:臨床心理士、ソーシャルワーカー、ヘルスケアの専門家、アートセラピスト、教員、スクールカウンセラー、パーソナルコーチなど</p>

### Nordoff-Robbins Music Therapy

NRMT は、ポール・ノードフとクライブ・ロビンズの二人の創始者によって開発、発展、確立されたアプローチである。障害児を対象としていたことから、音楽をコミュニケーションや自己表現のツールとしたクリエイティブなアプローチが特色で、セラピストにはこのための音楽的なトレーニングが必須となる。また、クライアントの「参加・抵抗の質」やミュージックチャイルドという固有の概念や人間学(Anthropology)的哲学を持つ。発祥はヨーロッパだが、ロビンズが後年世界中を回って育成に努めたことから、今では世界中に臨床・育成機関が存在する。トレーニング機関は全て、Nordoff Robbins International によって定められた規定に沿って内容を構成し認可を受けたものである。

今回、NRMT ではロンドンセンターとニューヨークセンターの2つのカリキュラムを紹介する。同じ規定を基にししながら、文化的、社会的要素に合わせて構成が柔軟に変容すること、またロンドンは大学院プログラムがトレーニングと一体となっている一方で、ニューヨークはトレーニングが教育機関とは独立した形で運営されている違いを比較する良い例だと考え2つ紹介する。以下、その内容を筆者が訳しここに紹介する。

Nordoff-Robbins Music Therapy (NRMT) London		
情報源	ノードフォーロビンス音楽療法ロンドンセンターウェブ公開情報より	
育成機関とプログラム名	Nordoff Robbins London Center Masters Course	
育成機関所在	Nordoff Robbins Centre, 2 Lissenden Gardens, London NW51PQ United Kingdom(英ロンドン)	
プログラム内容の認定機関	Nordoff-Robbins International	
インストラクター	センタースタッフ並びに地域のノードフ・ロビンス音楽療法士(実習受け入れ)など多数	
期間	約2年間 I) 1 Semester(約3ヶ月) II) 3 Semester(12ヶ月) III) 2 Semester(6ヶ月)	
スケジュールの目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 週2日は授業(ワークショップ、セミナー、スーパービジョンを含む)</li> <li>◆ 週1日は臨床(学内、病院、精神医療施設、ホスピス、その他) ※卒業までに3領域を経験する</li> <li>◆ 週1日は個人の勉強や研究の時間を設定</li> <li>◆ 週末集中の強化トレーニングを4回受講する</li> </ul>	
内容 ※ 期間 は、 上記口 マ数 字と対 応	期間 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ NRMT のアプローチの基本理念</li> <li>◆ 専門的な環境での実践(NRMT セラピストのセッションにおける見学、アシスタント、実践、振り返りへの参加)</li> </ul>
	期間 II	<p>構成要素1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コミュニケーション的でソーシャルな音楽性の基礎の習得と強化</li> <li>◆ スーパービジョンの効率的な活用</li> <li>◆ NR アプローチに関する主要な文献、リソース、理念への導入</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>構成要素2…専門家としての能力と知識:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 病理学や人々の生活状況に関する知識</li> <li>◆ 他職種や他の実践化との効果的な連絡</li> <li>◆ 異なる価値をおく様々な施設での仕事</li> <li>◆ 異なる状況と異なる聞き手に自身の取り組みを有効的に伝える</li> <li>◆ 研究への導入を含む、必須のアカデミックスキル、</li> </ul>

	構成要素3…音楽、健康、社会：実用的で批評的な見識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 音楽療法と幅広い芸術や健康に関わる仕事の境界面を知る</li> <li>◆ 絶えず変わる職場環境において音楽療法を持続、発展、拡大させるスキルを身につける</li> <li>◆ 芸術と健康に関連する公共政策について</li> <li>◆ “社会的方向転換(social turn)”を音楽療法の分野で理解し、コミュニティや社会の役割を人々の健康、病、障がいや排除の経験を通して考える</li> </ul>
期間Ⅲ	<p>研究プロジェクト</p> <p>音楽療法が未開拓の場所で自ら開拓・実施していく経験をする。これに向け必要なサポートは用意されている中で、新しいことへとチャレンジしていく。</p>
その他の条件	個別セラピーを受けること
トレーニング終了時の認定内容	NRMT 認定療法士育成トレーニング修了証：NRMT アプローチでの臨床活動が可能となる
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽譜が読めること</li> <li>◆ 第一楽器では中級レベルのスキル。第一楽器がハーモニーを奏でられる楽器でない場合は、第二楽器で初級レベルのスキルが必要</li> <li>◆ 大学院レベルの学びにふさわしい読み・書きのスキル</li> <li>◆ 特定のニーズを抱えた対象者と関わった経験がある(ボランティアや個人的な関係の中での経験も含む)</li> <li>◆ 人と音楽することへの情熱があること</li> <li>◆ 音楽療法と NRMT について十分な理解を持っていること</li> <li>◆ 実技試験と面接を受けること</li> </ul>

Nordoff-Robbins Music Therapy (NRMT) New York	
情報源	ノードフーロビンス音楽療法ニューヨークセンターウェブ公開情報より
育成機関とプログラム名	Nordoff Robbins Center for Music Therapy Nordoff-Robbins Music Therapy Certification Training Level 1
育成機関所在	82 Washington Square East, New York 10003
プログラム内容の認定機関	Nordoff-Robbins International
インストラクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ センタースタッフ</li> <li>◆ スーパービジョン、集中講義指導スタッフ</li> </ul>

<p>期間</p>	<p>約 2 年間、以下のいずれかの方法を選択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Onsite」ノードフ・ロビンズ音楽療法センター内での臨床実習によるトレーニング</li> <li>◆ 「Blended Learning」外部での臨床実習によるトレーニング(受講生の現職を実習へと活用すること、遠隔からの学びも可能)</li> </ul>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ オリエンテーション(週末集中講義、15 時間)</li> <li>◆ NRMT 入門:基礎、即興、リソース、臨床への適用(5 日間夏期集中講義、30 時間)</li> <li>◆ NRMT の臨床即興(5 日間夏期集中講義、30 時間)</li> <li>◆ グループ音楽療法の理論と実践(5 日間夏期集中講義、30 時間)</li> <li>◆ 臨床即興の強化(冬期週末集中講義、10 時間を2回)</li> <li>◆ 認定トレーニングセミナー(年9回で最低 18 回受講)</li> <li>◆ 個別スーパービジョン(1 回最低 60 分のスーパービジョンを少なくとも 32 回受ける、2週に1度提供される)</li> <li>◆ 臨床時間(セッション数ではなく、時間でカウントする。臨床即興のクラスを終了した後実践へ。臨床として125時間のノードフ・ロビンズ音楽療法の取り組み、うち 80 時間は個人セッションとする)</li> <li>◆ インデックスと記録(最低 120 セッションのインデックスを完成させる)</li> </ul>
<p>トレーニング終了時の認定内容</p>	<p>NRMT 認定療法士育成トレーニング修了証:NRMT アプローチでの臨床活動が可能となる</p> <p>※ニューヨークセンターでは、Level 1, 2, 3 が提供され、それぞれのレベルで得られるトレーニング内容、トレーニングにかかる期間が異なる。詳しくはニューヨークセンターのホームページ掲載の情報を参照(英語のみ)。</p>
<p>受講条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 音楽療法修士課程修了</li> <li>◆ 5年以上の音楽療法臨床経験</li> <li>◆ ピアノもしくはギターのどちらかと声を使った高度な音楽の基礎と技術</li> <li>◆ 自己意識と自己の内省への前向きな姿勢</li> <li>◆ 実技試験と面接を受けること <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実技試験では、ピアノとギター(どちらか一方も可)及び歌唱</li> <li>● 任意で用意した様々なスタイルの音楽の演奏(クラシック、ポップス、ジャズ、自作の曲など)</li> <li>● 面接官が設定する臨床設定をもとにピアノとギター及び声(歌)を使って即興する。この時、面接官は様々な楽器を演奏する。</li> </ul> </li> </ul>



## 考察

全てのトレーニングプログラムに共通していることは、内容が専門的で上級レベルであり、臨床経験のあるセラピストを対象としていることである。音楽療法においての大学院以上の学歴をもち、かつ臨床経験があること、あるいは指定の大学院プログラムにおいて勉強と平行してトレーニングを受ける何れかの形式を前提としている。この利点は、音楽療法と心理学における基礎知識と臨床に対する理解が既にあることで、より専門的な理論と訓練に速い段階で直接的に取り組めるということである。また、それぞれのプログラムが遠隔からの参加者への対応を積極的に行っている。例えば、可能な範囲で集中講義やセミナーを設定したり、教材の提供をオンラインで行うなどオンラインでの学びの場を活用したり、スーパービジョンやテーマに沿ったディスカッションをビデオ通話で行ったりするなどの工夫をしている。これにより、遠隔に所在を置くセラピスト受け入れを可能にしている。

また、どのプログラムも実践トレーニングへ本格的に入る前にアプローチの歴史や理念などの土台となる部分を学ぶ導入があり、スーパービジョンなどの見守りの中で実践トレーニングを行っている。この流れが作る効果は、理論と実践の総合的な学びである。AMT(インターセラピー)とGIMは受講生同士がペアになって実践トレーニングを行うというスタイルをとる。これにより、専門的な手法に未熟なセラピストが試し挑戦するのに安全で安定した設定を作ることができる。また、この際に浮上するリアルな題材をもとに理論と実践を統合していく過程が可能となる。またNRMTでも、臨床即興のより効果的な介入について、インデックスという画像記録を使った緻密なセッション記録の分析を通して学んで行く中で、先輩セラピストやスーパーバイザーからの指導を伴いながら、理論と結びつけてアプローチの理解を深めていく。そして、3つのアプローチともに、トレーニング後半には自らの取り組みを研究としてまとめ発表するような研究分野もトレーニングの一部に含まれている。これは先に述べた、日本の音楽療法の発展に求められている理論・実践・研究の3つが等しく重要性を持って構成されるトレーニングの理想である。

### 名古屋音楽大学大学院の音楽療法コース 特別トレーニングの構想

上記4つの育成プログラム内容を調査し、名古屋音楽大学大学院プログラムで採用したい要素がそれぞれにあることが分かった。端的にまとめると、アウトリーチ(大学院プログラムの所在から離れた臨床現場での実践トレーニング)、オンライン教育システムの導入、集中講義の活用である。

日本国内の経験豊富なセラピストを対象とした“学び直し”の場として必要なことは、遠隔での学びの可能性を広げることである。上記それぞれのプログラムのやり方を参考にすると、口述や直接の指導が必要とされる内容に関しては集中講義で対応し、オンラインを活用した指導やクラスメイトとの討議を取り入れることで、遠隔からの授業参加を可能とする。また、教材提供をインターネット上のシステムで共有することで、インターネットにつながる環境であれば、何時でも何処でも繰り返しビ

デオ教材や資料の閲覧が可能となり、学生の学びの時間の融通も利くことで、再度学術環境に戻るハードルを下げられると考えられる。

また、臨床実践については、NRMT ロンドンセンターが取り組んでいるようなアウトリーチ(大学院プログラムの所在から離れた臨床現場での実践トレーニング)が適しているのではないかと考える。日本国内にもNRMT セラピストが各地で活動していることから、彼ら・彼女らと連携を図る術を構築し、受講生の居住地から一番近いセラピストの下で臨床実習を受けられる環境を整えたいと考える。そうすることで、受講生の移動による体力や経済的な負担が軽減されるだけでなく、将来に向けての地元でのサポートネットワーク構築にも繋がるという利点もある。

一番の課題と考えるのは、臨床実習の時間数である。日本の音楽療法プログラムで課される臨床実習の時間は、海外のもの比べて圧倒的に少ない。しかし特別トレーニングにおいて、世界的なスタンダードの認定規定に見合うセラピストの質を維持する上で必要最低限の「経験値」が必要となる為、慎重な調整が必要であると考え。この点では、トレーニングとして必須となる課題の量や時間単位の捉え方も、NRMT ニューヨークセンターが挙げているような、具体的な数字がひとつの参考になるといえる。

今回の調査により、名古屋音楽大学大学院音楽療法コースの未来に向け、目標としたい方向性が明確になり、調整に必要な具体的な課題と項目が分かった。また、今回上記4つ以外にも複数他の育成プログラムを調査した過程で、特別トレーニングの認可を受けるハードルの高さを感じると共に、厳しい規定の中には柔軟性があることも理解できた。例えば、NRMT ロンドンセンターの取り組みで興味深いのは、専門家として語り伝えるスキルを養う内容がカリキュラムに含まれていることである。自ら積極的に考え自分の言葉で伝える力をつけることは非常に重要であるため、ひとつの参考としたい。加えてこうした例をもとに、日本という上記例とは全く異なる文化圏、そして音楽心理療法発展途上である土壌であっても、特別トレーニングプログラム構築の方法が見出せるような期待が持てた。今回調査した内容を活用し、高度音楽療法教育環境の整備構成へと次のステップへ歩みを進めて行きたい。

#### 参考文献

エイゲン K. (2013) 『音楽中心的音楽療法』(鈴木琴栄・鈴木大裕訳)春秋社

「AMI-Endorsed Training Programs」, Association for Music and Imagery  
<https://ami.bonnymethod.org/find-a-training/instituted> (参照 2018-2-25)

「Analytical Music Therapy Certification Training」, Molloy University, <https://www.molloy.edu/academics/undergraduate-programs/comtinuing-education-andprofe>

ssional-development/careers-and-professional-development-programs/music-therapy/  
analytical-music-therapy-certification-program(参照 2018-2-25)

「GIM 実践家育成プログラムの全容(レベル1～3)について」, 同朋学園 名古屋音楽大学,  
<http://www.meion.ac.jp/topi/gim%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E5%AE%B6%E8%82%B2%E6%88%90%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%E3%81%AE%E5%85%A8%E5%AE%B9%EF%BC%88%E3%83%AC%E3%83%99%E3%83%AB1%EF%BD%9E3%EF%BC%89%E3%81%AB%E3%81%A4/> (参照 2018-2-25)

「Level 1 Training」, Nordoff-Robbins Center for Music Therapy New York University,  
<https://Steinhardt.nyu.edu/music/nordoff/training/level1/>(参照 2018-2-25)

「Train to Be a Musi Therapist」, Nordoff-Robbins Music Therapy,  
<https://www.nordoff-robbins.org.uk/train-be-music-therapist> (参照 2018-2-25)